

報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



念仏奉仕団のご案内

本年六月三日と四日の二泊二日で京都の本山、本願寺へ団体参拝いたします。
この念仏奉仕団は近隣の本派寺院十三カ寺(志和組)で毎年実施しており、今回が全国最多の第七十八回となります。ただお参りするだけでなく本堂や境内などを清掃奉仕し、庭園や書院などを拝観して本山に親しみご縁を深めようと、志

和組寺院地域を中心に参加者を募っております。
この度は本山での予定が終了した後、本願寺の東側にある真宗大谷派(お東さん)のご本山、東本願寺に参拝して庭園や書院を拝観することを計画しています。
ご都合がつけばぜひ一緒に参拝して頂きたいです。
(詳細は「連絡ください」)

仏婦活動

設立五十年以上の妙徳寺仏教婦人会は現在、次の三つを中心に活動しています。

- ① 仏婦法座活動
毎年四月末の日曜日に開催。法座のほか初参式と会員への追悼法要を実施。
- ② 川上仏婦連合
八本松川上地区の他の仏婦と協力して川上仏婦連合を組織し、法座を開催。また、それぞれの仏婦法座へ参り合いをするなど交流、連携、協力をしている。
- ③ ダーナ活動
ダーナとは布施のこと。募財活動とお見舞い声掛け運動を中心に、相手のことを思い自分ができることを精一杯考えて行動する活動。お預かりした募財は全国仏教婦人会連盟を通じてユニ



昨年の仏婦法座の様子。初参式に参加して下さった赤ちゃんとご家族(上)と、花まつりの「花御堂」(下)です。仏婦会員さんが朝摘んだ花を持ち寄ってきれいに飾って下さいました。



セフなどの大きな組織に献金するほか、身近な地域のボランティア組織の支援、お見舞いなどでの声掛け運動などに活用している。
これらの活動を中心としながらも、自由で小規模な活動にも取り組んでいます。一年を通じて定期的にお寺に集まる活動、公民館活動とは違うお寺にふさわしい活動、お寺を助けることとなる活動をお心かけつつ、賛同者が増えるように声かけをしています。
● 写経の会
平成二十二年からスタート。十四時からお参りで開始。住職からお経に関する話約三十分、静かに写経を約三十分、その後コーヒート茶菓子の談話会で約一時間、十六時頃に終了。
現在会員は十六名(仏婦会員以外や男性も)。初年度からの会員も、町外の他寺

ルキヤップ収集
古切手収集ポストを本堂に設置している。古切手は国際協力団体である公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会に送付、分類整理して日本国内の個人の切手収集家に買い取られ換金、収益が海外医療協力を役立てられる。
ペットボトルリキヤップ収集は、本願寺広島別院が呼び掛けに応じて本堂に収集袋を設置。広島別院から広島労働会館のエコリキヤップ活動を通じて、認定NPO法人「世界の子どもにワクチ」を日本委員会が行う開発途上国の子どもたちにワクチを届けるという国際協力活動に役立てられる。
● 寺報の封入手伝い
寺の寺報「みょうとく」(年四回発行)と護持会からのお知らせ封書の封入作業を手伝っている。間違えないように丁寧かつ効率的な作業でなくてはならず、連携と確認が求められるが、作業完了の達成感、協力する

一語法話

る一体感がある。
「五濁」というのは、末の世において、人間が直面しなければならない五つの濁りをいいます。
「劫濁」：「劫」は「時代」という意味、「劫濁」というのは、「時代の汚れ」ということになります。疫病や飢饉、動乱や戦争が続き、汚れる状態なのです。
「見濁」：「見」は、「見解」ということで、人びとの考え方や思想を言います。邪悪で汚れた考え方や思想が常識となつてはびこる状態です。
「煩惱濁」：煩惱による汚れということ、欲望や憎しみなど、煩惱によって起こされる悪徳が横行する状態をつけたいたたくお楽しみもつけました。先日の法座後に粗品を贈呈いたしました。

行事予定

生命が軽んじられる状態と考えられます。また生きていくことの意義が見失われ、生きていることへのありがたさが実感できなくなり、人びとの生涯が充実しない虚しいものになってしまうことであると解釈したいと思います。
(次頁へ続く)

四月二十八日(日)
午前十時より 初参式
午後一時より 会員追弔会、法座

仏婦法座 (ぶつぽほつざ)



講師 築地本願寺王子布教所住職 大江和正師
久しぶりに帰郷して法話してください。楽しみです。

五月二十一日(火) 午前九時より

宗祖降誕会 (しゅうそうたんえ)

※子ども園の園児たちと一緒に本堂でお参りをします。

七月七日(日) 午後一時

八本松町篠 寿福寺様にて

川上仏婦連合法座

講師 安芸太田町 正覚寺 清胤 祐子師

ライン登録のお願い

寺報では対応できない、急な予定変更をすぐにお知らせするためにライン登録をお願いしています。普段は行事前に一斉配信しています。なお、お寺にお参りいただくたびにポイ



このQRコードを読み込むか、@985fghgyを検索してください

(前頁からの続き)

私たちが暮らしている現代とはどのような社会でしょうか。身のまわりで起きている、さまざまな出来事や事件を一つ一つ眺め返しますと、とても喜びにあふれた社会とは申せません。悲しいこと、悩むことが多すぎます。しかもそのような出来事がありにも多いために慣れてしまつて、驚

きや悲しみの実感が薄らいでしまつてきているのではないのでしょうか。現代の世相は、まさしく「五濁」といふよりほかは「五濁悪時」に生きる私はいったいどうすればよいのでしょうか。親鸞さまは、釈尊のお言葉を信じて生きるよりのほかはない、とおっしゃるのです。すなわち、釈尊

が示された阿弥陀仏の本願を依り処にして生きるほかはないと教えてくださるのです。人生の困難に陥つてどうすることもできず進退窮まったその時に、進むべき道はただ一つしかありません。釈尊は多くの仏さまの事をお説きくださったけれども、この世にお出ましくださった本當の目的はたつた

一つ、すべてを包みとつてくださる弥陀の大海を説くことにあるのだ(如来所興出世、唯説弥陀本願海)と、前回触れました。一方で五濁の荒海に漂いつつどうすることもできずにいる私は、釈尊のお勧めにより阿弥陀の教えをいただいでよろこぶよりほかに道はない(五濁悪時群生海、応信如来如實言)のです。

合同墓・墓地案内
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。縁ある多くの方にご利用いただきたいと思ひます。



妙徳寺ホームページ
<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>



「書道教室」
ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。(毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間)
※金谷雷聲先生(奮門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生へのFAX0823-82-9565 または妙徳寺へご連絡ください。



「おみのりサロン」開催予定日
4月24日(水) 5月13日(月)
6月13日(木) 午後2時より1時間半
(住職が本堂に待機、相談をお受けします)

仏事作法④

お経について

「信は莊嚴より起る」といいます。信仰とはきれいに整えられた仏前で育まれるのであるから、私が手を合わせる場を持つていくことは大切なことだといふことでしょうか。私たちは「これは大切なことなのだ」と先人方々から、言葉よりもむしろ姿によって教えられて参りました。この大切なことであればこそ、私たちはその意味を踏まえて美しく丁寧に整え、守り伝え

たいものであります。仏教といえど何を思い浮かべますか?…いろいろ挙げることはできますが、やはりお経が中心となるでしょう。『経』とは不変の道理を説いた書物のことで、インド原語では「スートラ、音を訳して『修多羅』とも表記されます。場所や時代、人が変わつてもうなずくことができる絶対不変の教え、ゴータマ・シッダールタ(釈尊)の姿を通して説かれた諸仏の教え、人に寄り添い励まして迷いを離れる道をしめす、それが

『経』です。ゴータマ・シッダールタによって初めて語られた諸仏の教えは、不変の道理であるがために多くの国の様々な人に求められ、砂漠や山や海を越えたくさんの言葉に翻訳されました。そこにはたくさんの苦勞苦難や迫害がありました。インドから東に至る何千キロもの過酷な砂漠や山越えの旅に挑んだ亡命の僧、中国における翻訳や論議の研鑽・努力、王朝が変わり仏教が迫害にあう中でそれでもひそかに経典を学び続けた学僧遣唐使においても幾度も船が沈み、人も積み荷も失いながらなお日本に経典をもたらすために書写を続けた留学僧など、これら国の興亡に伴う戦争、思想迫害での死罪や焚書などに遭いながらも、多くの人を救うため後の世の人の道を開くため、我が身をなげうつてもこの教えを伝えなければならぬと考へた、今では名も知ら

れない志を持った多くの人々がおられたのです。いまここに『経』を手に入れることができるのはこうした教知れない多くの苦勞や犠牲の上のことでありま

ださつた大切な宝、釈尊のお説法にあり尊い不思議な縁と心得て、決して軽々しく扱つてお経本を足元に置くようなことがないようして両手で大切に扱い、額に押戴くようにしてから開き、閉じてからも押戴くような動作が作法です。仏さまの救いのはたらきとよき方々の今私が手にしているお経は先人方々が命を賭して伝えてく

読経は死者に対する鎮魂歌のように思われていることが多いのですが、内容そのものは釈尊が生きている私に向けられた大切なお説法です。亡くなられた方もそして私自身も必ず救われていく往生浄土の道は今ここに歩んでいるのだ、という釈尊のお説法にあいよるこびを得てうなずくこと、それは生死を越えて生きゆくことなのです。(次号へ続く)



仏教の東方伝播図
様々なルートで伝わっていることが分かっていきます(wikipediaよりイラスト転載)

◆お経を読むための手順◆



「浄土真宗仏事作法なんでも大事典」2002年中国新聞社発行よりイラスト引用

志和組テレホン法話「みのりの電話」
しじゅうさんざん しくはつく
082-433-4989
4月 1日～ 西方寺 安國 真雄
4月 11日～ 八本松篠 岡本 法治
4月 21日～ 長松寺 笠岡 潤聖
5月 1日～ 報専坊 松島 典子
5月 11日～ 長松寺 中田 輝道
5月 21日～ 西方寺 安國 智乗
6月 1日～ 寿福寺 田中 真
6月 11日～ 浄蓮寺 沼田 典生
6月 21日～ 西方寺 安國 晴子
志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

「写経の会」
4月26日(金) 5月24日(金) 6月28日(金)
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ
「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」
4月13日(土) 5月11日(土) 6月 8日(土)
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ
「妙徳寺仏教壮年会例会」 (原則毎月第2土曜日)
4月13日(土) 午後6時より 定例会
5月11日(土) 午後6時より 定例会
6月 8日(土) 午後6時より 寺報編集会議